令和６年度新潟県立阿賀黎明高等学校第３回学校運営協議会　議事録

１　日時

令和７年２月５日（水）13 時 30 分～15 時

２　会場

新潟県立阿賀黎明高校　多目的ホール

３　参加者

委員７名

県教育委員会１名

（オブザーバー参加）

・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者３名

・阿賀黎明探究パートナーズ関係者１名

・阿賀黎明高等学校教職員４名

計 16 名

４　次第及び概要

（１）開会（遠藤会長）

○　県主催のＣＳマイスターを招いての研修会にて、これからＣＳを立ち上げる学校もあると聞いた。阿賀黎明高校が先駆的存在として高校と町の両方を充実させていきたい。

○　熟議は結論を出して決定する、学校が現実的に困っていることを話し合うことが大事とのこと。

（２）校長挨拶（斎藤校長）

（３）本校の状況説明

①　概況及び報告（斎藤校長）

○　令和６年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰決定の報告

○　今年度の取組について

・探究活動の充実について、地域と連携した活動の一層の推進を図る。

・個別最適な学びの充実について、多様な進路希望に応じた選択科目充実を図る。

・阿賀津川中学校との連携型中高一貫教育の推進を図る。

○　今年度の状況と課題について

・３年生の進路状況

・いじめ防止対策について

・教育相談について

・学校行事について

・部活動について

② 教育課程とスクール・ポリシーの変更について（南部教頭）
３学類から２学類への変更と、それに伴うカリキュラム・ポリシーの変更
③ 生徒募集における地域との連携について（西田コーディネーター）
○ 地域みらい留学説明会
テーマ別説明会：延べ 63 名の中学生及び保護者が参加
高校別説明会：延べ 84 名の中学生及び保護者が参加
○ 東京対面説明会：延べ 43 組の中学生及び保護者が参加
○ まなび体験会：28 組の中学生及び保護者が参加
○ その他現地見学：３組の県外中学生及び保護者が参加
④ 教育活動における地域との連携（加藤コーディネーター）
ア 総合的な探究の時間
【１年生】・阿賀町さいこうプロジェクト「ちょこプロ」「福祉体験」「ミッション型職場体験」の実施報告
【２年生】・阿賀町さいこうプロジェクトの「中間発表会」「プロジェクト実施」報告
イ 学校設定教科「地域学」
【２年生】・「まちでコミュデザ」（地域をフィールドとした活動の企画・実施）
【３年生】・「まちあそび図鑑」（町の資源を活用したまちあそびを企画・実施）
ウ 家庭科
【フードデザイン（２年生）】
・地域の郷土料理や特産物を活かし、温泉のカフェで提供したいメニューを開発する。
【保育基礎（３年生）】
・保育園を訪問し、子どもの福祉についての課題解決を体験活動で学ぶ。
エ 阿賀津川中学校との連携授業
【地域学Ａ】・高校生が企画・実施するプロジェクトに中学生が参加。
【総合的な探究の時間】・中高生それぞれのプロジェクト発表を互いに聴き合う。
オ 学校行事
【黎明祭】・マルシェ出店を通じて地域住民との交流を深める。

（４）質疑応答・意見交換
（猪俣副会長）令和７年度の入学者数の想定は何人ぐらいか。
（斎藤校長）特色化選抜では５名の出願があった。いずれも地域探究での出願。
（猪俣副会長）阿賀黎明探究パートナーズも含めて、地域の方の負担があり継続していけるかの不安があるという点についてはどうか。
（齋藤委員）好きでやってくださっている人が多く、地域の方も楽しみながら行っているのではないか。一方、町内で教育に関心のない方も高校と関わりを持つように工夫をする必要があると考えている。
（齋藤委員）いじめの件数が多くなっている点について、いじめを見逃さないという意思と子どもに目が向いているという安心がある。しかし、その定義をいじめとしていいのかとも感じる。社会に出たら嫌な気持ちを感じることもあるた

め、いじめをなくしていこうと動いたらどうなってしまうのだろうと思う。

（斎藤校長）いじめの定義により、自分で困難を乗り越える力が薄くなっていくという意見もある。いじめはいじめと認知する一方で、精神力を身につける支援をする必要があるかもしれない。

（清田委員）黎明祭のマルシェについて、今年先生を中心として企画運営を行っていただいたが、負担ではないか。保護者の協力を得るという考えはあるか。

（南部教頭）大変ではあるが、新たな発見やチャレンジによる達成感があった。ただ、教職員数が少なくなっているため負担感も注視しながら考えていきたい。

（石川委員）地域と連携した取組による生徒の反応や感想は。

（加藤コーディネーター）フードデザインで糀をテーマに扱った。地域の方へのインタビューや調理実習を重ねたことで糀への親しみがわいたという発言があった。

（猪俣副会長）地域連携が進路や入試にどうつながっていると感じるか。

（西田コーディネーター）寮では普段から大人と関わっていたため面接がこわくなかったという感想を寮生の一部から聞いている。

（斎藤校長）「高校時代になにを頑張ったか？」を入試で聞かれることが多い。地域連携の取組を面接や志望理由書で話すことは他校との違いでもある。

（猪俣副会長）成果が出ているということを地域にも発信することが大事であり、スクール・ミッションにも合致している感覚を持つことは大事だと感じる。

（５）指導・助言（齋藤指導主事）

○　阿賀黎明高校のＣＳの取組をどう波及させていくか。

○　年度末公表予定である県立学校の将来構想では、残っていく学校について、最大限魅力化を図る必要があるとしている。

○　先日の出口先生の研修会では、次のような話があった。

・熟議で出たことをどう実現していくか。

・課題を出さなければ解決につながらない。

○　ＣＳをさらに充実させて行くには評価→改善が大切となる。評価システムの活用や振り返りの場の設定を行ってほしい。

（６）熟議

テーマ「スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく学校運営における評価の役割とその項目について」

（７）閉会の挨拶（猪俣副会長）

○　齋藤指導主事の話を聞いて自分たちの方向が間違っていないと気づいた。

○　実践・改善がよい結果につながっていくので次年度以降もよろしくお願いしたい。